

留学生活 9 年目を迎えて

王 慧雋

気がつけば、大学院の修士課程に進学するために 2007 年 3 月に来日して、もう 9 年目を迎えようとしている。初めて日本に来たのは 2005 年の夏で、アイセックという学生団体が運営するインターンシップ事業の研修生として、東京で大学 3 年目の夏休みを過ごした。初めての海外生活で、実に新鮮かつ刺激の多い二ヶ月だった。それは、1 年生のときから習ってきた日本語を使い、ホームステイ先の家族、研修先の会社の社員、また日本に来てから知り合った友人など様々な人に、自分のことを話し、相手のことを聞く楽しさに目覚めた期間でもあった。のちに大学卒業後の仕事を考えはじめた私は、その日本滞在の実体験がきっかけとなり、より多くの日本語を学ぶ外国人が自分と同じように、日本語で伝え、相手を理解する楽しさを体験できたと思うようになった。さらに、そうした人の日本語学習を支援する仕事に携わりたいと思い、日本の大学院で日本語教育を専攻することを決心したのだ。

修士課程に進学して以来、研究に専念していたが、留学 9 年目にして、来る 4 月から、主に留学生を対象に日本語の授業を実施する大学の日本語教育機関で助手の仕事に就くことになった。これまでの 8 年間は、留学生として自分の勉学を進めてきたが、これからは、留学生をサポートする側として、教育活動の補佐に携わるのだ。日本語の授業を実施することはないが、身近な立場から、留学生がよりよい日本語の学びを得られるように手伝うことができる。日本語でのコミュニケーションの楽しさを覚え、日本語教育を学ぶという道を選んだという動機を持つ自分にとって、まさに本望というべき仕事だ。初めて日本に来た時のことを思い出すと、日本でこのような仕事に従事する機会が得られるとは夢にすら思わなかったなど、そのような感慨も湧いてくる。

4 月からの仕事の内容を一日でも早く理解できるように、先日、勤務先の大学で行われた日本語科目履修者向けの個別相談会を見学させてもらった。会場に到着したのは、開始時間より少し前だったが、日本語の授業科目をコーディネートし、実際の授業も担当している先生方と、それぞれ英語や中国語、韓国語で相談に対応できるボランティアの方々が既に着席しており、準備万端のようだった。開始時間になると、会場の外に留学生の姿が現れはじめた。緊張しているせいか、会場の様子を窺っているだけで、中に入ろうかと躊躇している様子の方も少なくなかった。見学しているだけより、留学生たちを会場内へ誘導して案内する仕事を手伝ったほうがいいのかと思い、会場スタッフと相談してそうさせてもらった。会場の外を徘徊していて、なかなか中に入ろうとしない留学生たちに声をかけ、会場内へ案内したところ、何人かから不安げな眼差しを向けられた。特に、日本語がまったくしゃべれない人の場合、助けてという心の声が聞こえそうな眼差しだった。そうした留学生の不安を少しでも和らげようとして、なるべくゆっくり、所属や困っていることなど、話を聞くように心がけた。

誘導と案内の仕事を手伝っているうちに、一つ気づいたことがある。来場者はみな、日本語の授業の履修に関する相談のために来ているはずだが、実際は何を相談すればよいか分からないという人もいた。何人かの中国人留学生を、先生とボランティアと相談するよう、空いているテーブルに案内しようとしたところ、何を聞いたらいいかを考えてから行くと言われたのだ。自分も留学生なので、緊張しているのは身にしみるほど分かるが、正直なところ、少し驚いた。支援する側としては留学生が困っていることを解決するために設置した個別相談会だが、留学生にとって、相談というのは必ずしも気軽にできるものとは限らないものようだ。もちろん、日本語があまりできないことに起因する不安や躊躇もあるだろうが、母国語で対応してもらえらるとはいえ、大きい会場で面識のない人と相談することに不慣れなこと、あるいは、相談しようとする意識をこれまで持っていなかったからという原因もあるかもしれない。

相談のテーブルに向かう前に質問を一生懸命考えている留学生たちの姿を見ていて、彼らの真剣さに感服したと同時に、自分が二度目の来日で留学に来たときのことを思い出した。自分は大学で日本語を専攻していて、修士課程に入学したときは科目履修のことなど分からないことがあっても、日本語で事務所に問い合わせたり、同期の日本人の学生に尋ねたりすることができたため、特に困った記憶はなかった。しかし、今回の相談会に来た留学生たちは、日本語がまだあまり話せない人が多く、8年前の自分とは事情がだいぶ違う。これから彼らの日本語の学びをサポートしていくうえでは、自分の留学生としての経験を活かすだけでは、想像もつかないことが多いだろう。今回の見学で、一人ひとりに、何に不安や躊躇を抱えているのかを理解できるように話を聞いて、いかにしてそれぞれの問題を解決したらいいかを考える姿勢で臨む必要があることを再認識できたような気がする。留学生の日本語学習の支援をする側として、これからも様々な問題に直面するに違いないが、初心を忘れず頑張っていきたい。